

単元の見どころ

- 登場人物や構成に興味を持って読み、読書の楽しさを味わおうとしている。(関心・意欲・態度)
- 課題に対する互いの考えの共通点や相違点を考えて、話し合うことができる。(話す・聞く能力)
- 自分の考えについて、本文の引用や要約を用いて理由を挙げて書くことができる。(書く能力)
- 場面の移り変わりに気をつけて、叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化や成長を読むことができたり、それを基に物語のクライマックスについて自分の考えを持ったりできる。(読む能力)

児童の実態

学力診断テストの「文学的文章」の結果から、物語の展開をとらえ叙述に即して考える力が不足していることがわかる。また、「説明的文章」の正答率が県平均を7.2ポイント上回っているのに対し、「文学的文章」のそれは、14.9ポイント下回っていた。

「絵本『あまがえる先生ミドリ池きゆうしゅつ大作戦』読み聞かせ後の調査」からは、児童の物語の展開や構成に関心が低い、あるいは物語の展開を読みとれずにいるという実態が推考される。日常の学習でもテキストの前後を考えずに経験から物事をとらえ、一人よがりな解釈をしがちな傾向にある児童が多い。

本単元の指導にあたっては、物語の展開の構造を確かめながら、叙述に即して読むことで、教材文の内容を児童が主体的に味わっていくようにしたい。

本校第4学年 学力診断テスト 文学的文章の問題の正答率

小問のねらい	(1) 叙述に即して場面の様子を読み取る	(2) 叙述に即して人物の気持ちを読み取る	(3) 叙述に即して表現の内容を読み取る	(4) 場面の様子に合う表現を見つけた	(5) 指示する語句の内容を読み取る	(6) 叙述に即して人物の気持ちの変化を読み取る
正答率	0.0%	90.9%	48.5%	93.9%	33.3%	39.4%

※は、単位としての「文」の意味の理解不足による誤答が5割程度。

絵本『あまがえる先生ミドリ池きゆうしゅつ大作戦』読み聞かせ後の「どこに関心を持ったか」調べ (33人 複数回答)

(1) 自然の様子	(2) 物が出てきた	(3) いろいろな生き物がでてきた	(4) 知らない生き物がたまたま(結末部)	(5) 部用した(展開)	(6) ベットボトルを利用したこと(クライマックス部)	(7) 水車作戦が成功したこと(クライマックス部)	(8) 池以外の動物も参加したこと(展開部)
24人	16人	10人	9人	7人	4人	2人	2人

研究主題との関連

【見つける】

まず、昔話や既習教材を活用して物語の典型的な構造を学習する。本教材の構造もその典型であることを前提として学習活動に入ることで、導入の工夫(冒頭の反復型)の面白さを感じ取ったり、展開していく場面を主体的に読み取ったりできるようにする。

【考える】

不明瞭な「中心人物」、「クライマックス」の読解を、本単元全体を通しての課題として設定する。この課題解決を学習活動の軸に据えることで、叙述から論理的に登場人物の性格や気持ちの変化(成長)をとらえるようにする。その活動後(あるいは過程)で、児童一人一人が課題の答えを見つけ出していくことで、達成感を味わえるようにしたいと考える。

【表現する】

物語の構造図を用いて展開を視覚的にとらえながら読解を進めることで、児童の思考を明確にし、意見の共通点や相違点をとらえやすくする。第4次では、「ポレポレクライマックス新聞」の製作を取り入れ、各自が深めた読みの表現の場を保障したい。また、これを以後の物語の読みの意欲付けとする。

学習計画

13時間扱い/本時は第7時

次	配時	学習内容	関	話聞	読	書	評価規準
1	2	昔話や既習の教材をもとに物語の典型的な構造を理解する。					・物語の典型的な構造を理解することができたか。
2	2	本教材の「いつ」「どこで」「だれが」を読む。					・登場人物について興味を持って中心人物を捉えようとしているか。
3	1	「はじめ」の場面をつかみ、登場人物について読み取る。					・叙述から二人の登場人物をとらえることができたか。
	2	「きっかけ」の場面をつかみ、キーワードをとらえる。					・見出しの理由を、本文の引用や要約によって理由を挙げて書くことができたか。
	3	「展開1」の場面をつかみ、登場人物について読み取る。					・叙述を基に登場人物の性格を読み取ることができたか。
	4	「展開2」の場面から、登場人物について読み取る。					・叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化を読み取ることができたか。
	5	想定したクライマックス部を読み、登場人物について読み取る。					・叙述を基に登場人物の気持ちの変化を読み取ることができたか。
	6	中心人物とクライマックスについて、自分の考えを紹介しあう。					・課題に対する意見の共通点や相違点を考えて、話し合うことができたか。
4	3	「ポレポレクライマックス新聞」をつくる。					・本文の引用や要約によって事例を挙げて自分の考えを書くことができたか。

本時の授業のポイント

「はじめ」部の読み取りでは、叙述から人物像をとらえた。本時は、叙述を基に想像して人物像をとらえる経験を児童がする時間と位置づけている。叙述を基に想像して読むことの意識化を図りたい。

本時のねらい

叙述に基づいて想像して登場人物の人物像をとらえることができる。

学習の流れ

学習活動及び内容	準備・資料	指導上の留意点 ○ 個への対応 ㊦ 評価												
<p>1 前時の学習を想起し、本時の学習場面を設定する。</p> <p>〈児童が読んだキーワードの関連〉</p> <table border="1" data-bbox="159 582 699 716"> <thead> <tr> <th></th> <th>きっかけ部</th> <th>展開1部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桃太郎</td> <td>鬼退治に出かけた。</td> <td>鬼退治に行くなら…</td> </tr> <tr> <td>ゆうすげ村</td> <td>だれがおてつだいに…</td> <td>おてつだいに来ました。</td> </tr> <tr> <td>ポレポレ</td> <td>ポレポレ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2 本時の学習課題を捉える。</p> <p>— 学習課題 — 展開1の中に「ポレポレ」を探そう。</p>		きっかけ部	展開1部	桃太郎	鬼退治に出かけた。	鬼退治に行くなら…	ゆうすげ村	だれがおてつだいに…	おてつだいに来ました。	ポレポレ	ポレポレ		<p>クライマックスグラフ(揭示用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導上の留意点 ○ 個への対応 ㊦ 評価 ○ 「きっかけ」の場面のキーワードをダウトゲームで確かめる。その際、ペアで確認するようにして学習への雰囲気作りをする。 ・ 指名読みをしながら、「展開1」を設定する。 ・ 第1次の「物語の構造図」の学習における、「きっかけ」と「展開1」の関連性を想起し、本教材の「展開1」に「ポレポレ」という単語がないことを確かめる。
	きっかけ部	展開1部												
桃太郎	鬼退治に出かけた。	鬼退治に行くなら…												
ゆうすげ村	だれがおてつだいに…	おてつだいに来ました。												
ポレポレ	ポレポレ													
<p>3 登場人物の人物像を読み取る。</p> <p>(1) 「ぼく」の人物像を叙述に基づいて読む。</p> <p>〈叙述にある「ぼく」〉 「運動が苦手」</p> <p>〈児童が想像するであろう人物像〉 活発ではない、内気、引っこみじあん、ちょっと暗い ↓↑ 〈根拠になるであろう叙述〉 「教室にいた」、「首を左右にふった」、「ぼくも同じようにすわった」、発話がない</p> <p>(2) 「ピーター」の人物像を読む。</p> <p>〈児童が想像するであろう人物像〉 やさしい、せっきょくてき ↓↑ 〈根拠になるであろう叙述〉 「グラウンドにいこう。」→「空を見に行こう。」</p> <p>(3) 展開1の中の「ポレポレ」について話し合う。</p> <p>4 読み取った「ぼく」の人物像について叙述を引用(要約)してまとめる。</p> <p>〈形式(第一次から活用)〉 「ぼく」は、○○だと思う。なぜならば、○○○○からだ。</p> <p>5 本時のまとめをして、次時で本時の学びをいかして、再び中心人物を読み解いていくことを確かめる。</p>	<p>2人の人物像の表(黒板提示)</p> <p>「ぼく」の顔絵(提示用)</p> <p>「ピーター」の顔絵(提示用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実は、「ポレポレ」が存在しているかもしれないことを推考して、課題を設定する。 ・ 大きな課題である中心人物を探り当てることと「ポレポレ」を見つけることの関連性を示唆して活動に入る。 ・ 展開1をもう一度朗読する。 ○ 根拠を見つけてから人物像を考えさせると、根拠一つ一つの解釈に執着して思考が滞るような児童もいると考えられる。『「ぼく」ってどんな子か。』と発問し、イメージを具体化させてから根拠をみつけていくようにする。 ○ 根拠となる叙述は、本文に傍線を引く(板書はしない)ことで、「4」で人物像表に記述した性格と本文をつないだ思考ができるようにする。 ・ 「ぼく」の人物像の根拠が明らかにされたときに、自分たちに置き換えたり助詞を確かめたり、役割演技をするなどして、その解釈が一般的であることを確かめるようにする。 ・ 「ぼく」の人物像を叙述に基づいて読み取れたことについて皆を大いに賞賛し、意欲的に取り組めるようにする。 ・ ノートの人物像表の色分けによる分類(叙述に記載された人物像か叙述を基に想像した人物像か)を指示し、視覚的に確かめる。 ・ ピーターの行動(発話)の中に、「ポレポレ」があることを確認したい。 <div data-bbox="893 1780 1492 1993" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 読み取った「ぼく」の性格を、叙述から根拠を挙げてまとめることができる。 (ノート)</p> <p>A 根拠を二つ以上挙げて、まとめている。</p> <p>B 根拠を挙げて、まとめている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書を利用して、叙述と読解の関係、本時読解場面におけるポレポレの存在と構造図との関連などの学習を押さえる。 												